

「宮古島との姉妹都市縁組50周年」。このページでは、毎月、宮古島の情報をお届けしていきます。まず、第1回目は、宮古島について紹介します。

**岡** 山空港を飛び立ち、那覇空港を経由して5時間弱で、沖縄の海に宮古島が姿を現します。津山市の半分以下の面積(204.6km<sup>2</sup>)の島は、その全貌を飛行機上からも確認することができます。

空から見た宮古島は、サンゴ礁が隆起してできた島なので、全体的に平坦な地形となっています。そして、そのサンゴが生み出す、東洋一美しいといわれる砂浜は、特に印象的で、エメラルドグリーンの海に立つ波と相まって、ひとときわ白く輝きます。



**平** 成17年に1市3町1村が合併した宮古島市ですが、旧平良市域は都市化され、そのまちなみの多くは、コンクリートを主とした建物で、ところどころに伝統的な琉球建築もみられます。郊外には、サトウキビ畑を中心とする農村風景が広がっています。

このように宮古島は、気候や風土が津山と大きく異なるまちです。

**津** 山を訪れた宮古島の人が、吉井川の大きな流れを珍しそうに見入ることがあります。そう、宮古島には「川」がありません。山といえるほどの高地もなく、海辺を除いては、平らな台地が続きます。

冬は北風が強く、長袖の上着が必要な時もありますが、年間平均気温が23℃(津山は14℃)で、最も寒い1月でも18℃を下回らない亜熱帯気候です。南国らしい街路樹を見ると、異国情緒を感じられます。



# きらめく 津山人

津山おくにじまん研究会会員  
赤坂 健太郎さん  
(津山市出身)



津山の歴史を掘り起こしたい

津山の歴史や文化などを幅広く研究する「津山おくにじまん研究会」の会員で、明治時代以降の津山の歴史を中心に、郷土史を研究している赤坂さんにお話を伺いました。

歴史に興味を持ったきっかけは？

小学生の頃から、鶴山公園や衆楽園など市内の史跡を訪れる機会が多く「津山は歴史のあるまちだなあ」と思っていました。それに、小学6年生の時、市内にある古墳の発掘現場を訪れ、出土品などを見て、一層、津山の歴史に興味が増えました。また、実家には、昔の津山の町並みなどを写した写真はありますが、たくさんありました。カメラに興味があ

ったので、高校生の頃は、はがきに写っている場所を探し訪れては、写真を撮っていました。

表立ってお国自慢をする人が少ないように感じます。地元の誇れる史跡や文化などをもっと自慢してほしいですね。

どんな活動を行っていますか？

昔の新聞や市史などの史料から、今では失われてしまっている建物や施設の痕跡を追ったり、史料には載っていない、地域に伝わる昔の話を聞き取ったりするなど、埋もれた歴史の掘り起こしを行っています。

津山がどんなまちになったら良いと思いますか？

津山は、美作国の国府が置かれた地で、城下町でもあり、長い歴史と文化が息づいています。さらに、戦災を受けていないので、昔の町並みや史料が数多く残っています。「わたしたちのまちには歴史の遺産がたくさんある」ということを、皆さんにもっと知ってもらい、市民が観光客などに案内や説明ができるまちになってほしいですね。

活動を通じて感じることは？

同じ史料を読んでも、着眼点を変えてみると、さまざまな謎や疑問が湧いてきます。また、まちの調査をすると、思いも寄らない逸話などを聞くことがあります。掘り起こした歴史を、未来に伝えていくことが大切だと感じています。

歴史が未来に伝わると、皆さんの心に、まちへの親しみや郷土愛が育まれていくと思います。また、津山の人は奥ゆかしいのか、

好奇心と探究心が旺盛な赤坂さんは、「不思議だな？」と思うと、調べずにはいられなくなるそうです。これからは、津山の知られざる歴史(謎)を掘り起こしてください。



史料を研究する赤坂さん